

NT (準絶滅危惧)

チョウ目 シジミチョウ科

カテゴリー判定基準：a), b)

クロツバメシジミ東日本亜種

旧レッドリストカテゴリー		
1991	2000	2007
R	NT	NT

Tongeia fischeri japonica Fujioka, 1975

日本固有亜種

小型。本州中部に局地的に分布する日本固有亜種で、長野県や山梨県に生息地が多い。成虫は、多化性で、4~11月に見られ、食餌植物はベンケイソウ科のツメレンゲなど。生息地は、河川堤防や露岩地、崖地、人家の石垣などの日当たりの良い場所である。崖地の安定化のためのコンクリートの吹きつけ工事 (24) や河川改修 (13) やダム建設 (25) などによって各地で減少しているほか、採集圧も見られる (41)。

執筆者：中村康弘 (日本チョウ類保全協会)

チョウ目 シジミチョウ科

カテゴリー判定基準：a), b)

クロツバメシジミ西日本亜種

旧レッドリストカテゴリー		
1991	2000	2007
R	NT	NT

Tongeia fischeri shojii Satonaka, 2003

日本固有亜種

小型。本州西部、四国、九州 (福岡県南東部および大分県北部) に局地的に分布する日本固有亜種。成虫は、多化性で、4~11月に見られ、食餌植物はベンケイソウ科のツメレンゲなど。生息地は、露岩地、崖地、河川堤防のほか、人家、神社、寺院の石垣や屋根なども多い。崖地のコンクリートの吹きつけ工事や道路建設 (24) などのほか、人家の石垣や瓦屋根の作りかえ (71) によって各地で減少しているほか、採集圧も見られる (41)。

執筆者：中村康弘 (日本チョウ類保全協会)

チョウ目 シジミチョウ科

カテゴリー判定基準：a), b)

カラフトルリシジミ

旧レッドリストカテゴリー		
1991	2000	2007
R	NT	NT

Vacciniina optilete daisetsuzana (Matsumura, 1926)

日本固有亜種

小型。北海道の大雪山系や日高山系、根室半島などに局地的に分布する。成虫は、年1回7~8月頃に発生し、食餌植物は、ガンコウラン科のガンコウランやツツジ科のコケモモなど。生息地は、高山帯の矮性植物群落や海岸付近の高層湿原である。低標高地での生息地では、観光開発など各種開発によって生息地が減少している。国指定の天然記念物。

執筆者：中村康弘 (日本チョウ類保全協会)

チョウ目 タテハチョウ科

カテゴリー判定基準：a), b)

コノハチョウ

旧レッドリストカテゴリー		
1991	2000	2007
R	NT	NT

Kallima inachus eucerca Fruhstorfer, 1898

大型。国内では、沖縄島、石垣島、西表島に分布していたが、沖永良部島でも見られるようになった。成虫は年3~5回程度発生し、年間を通じて見られる。食餌植物は、キツネノマゴ科のセイタカスズメシソウなど。各種開発や森林伐採 (11) などによって良好な環境が減少し、個体数も以前と比較して非常に少なくなっている。沖縄県指定の天然記念物。

執筆者：中村康弘 (日本チョウ類保全協会)